

## 第 62 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2025 年 12 月 3 日（水）

全体会・部会②・部会③ 10:00～12:00（予定）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 ホール 5A

### 次 第

#### 【部会②】

(1)開会

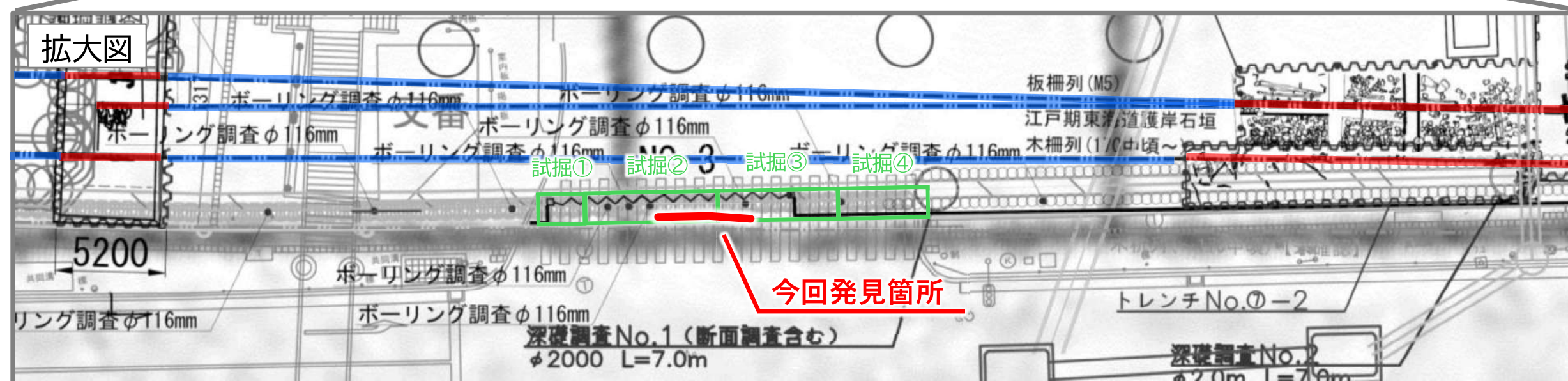
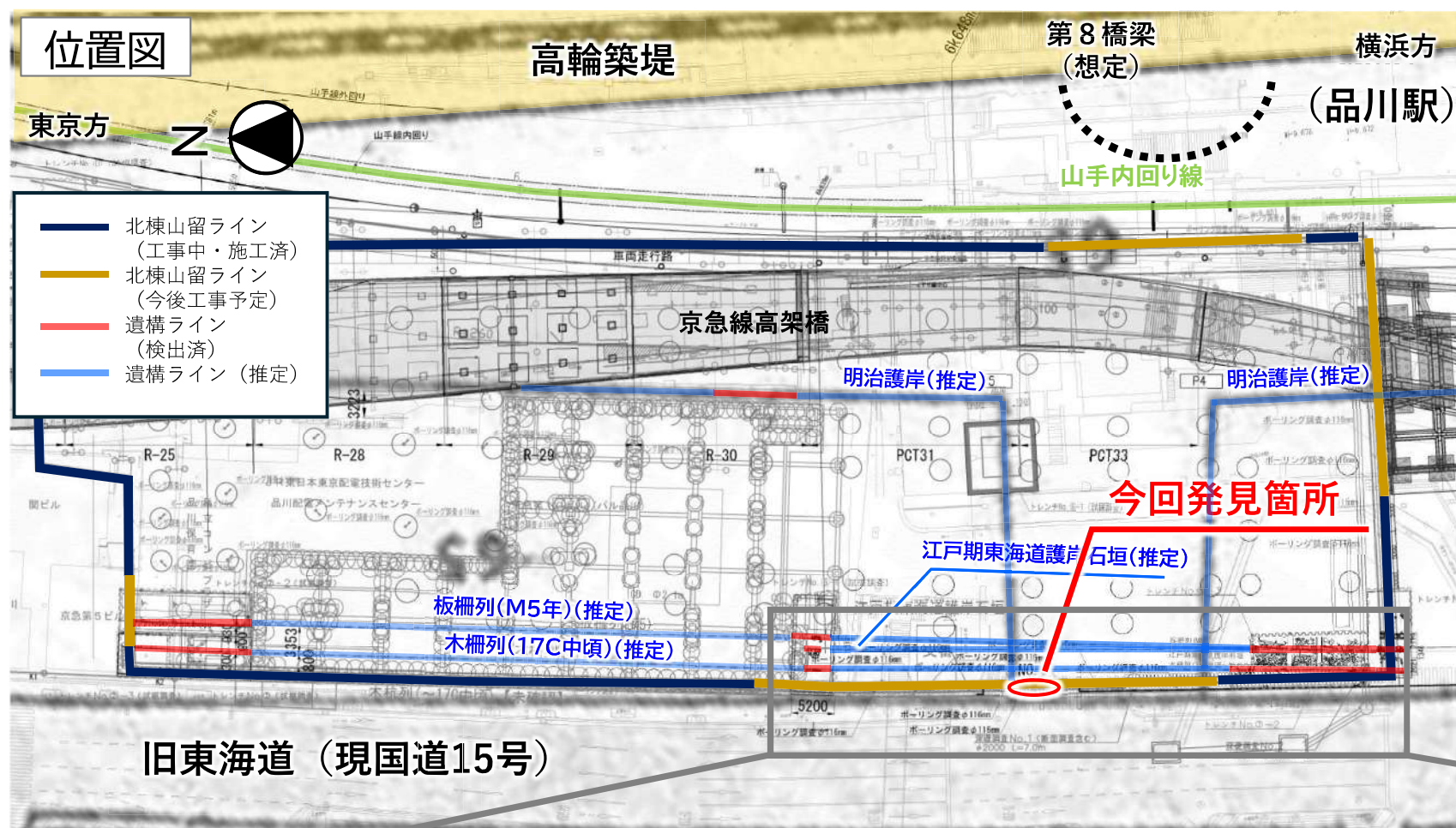
(2)品川駅北棟ビル山留工事に伴う埋設インフラ確認で発見された石垣について 【資料 1】

(3)その他

(4)閉会

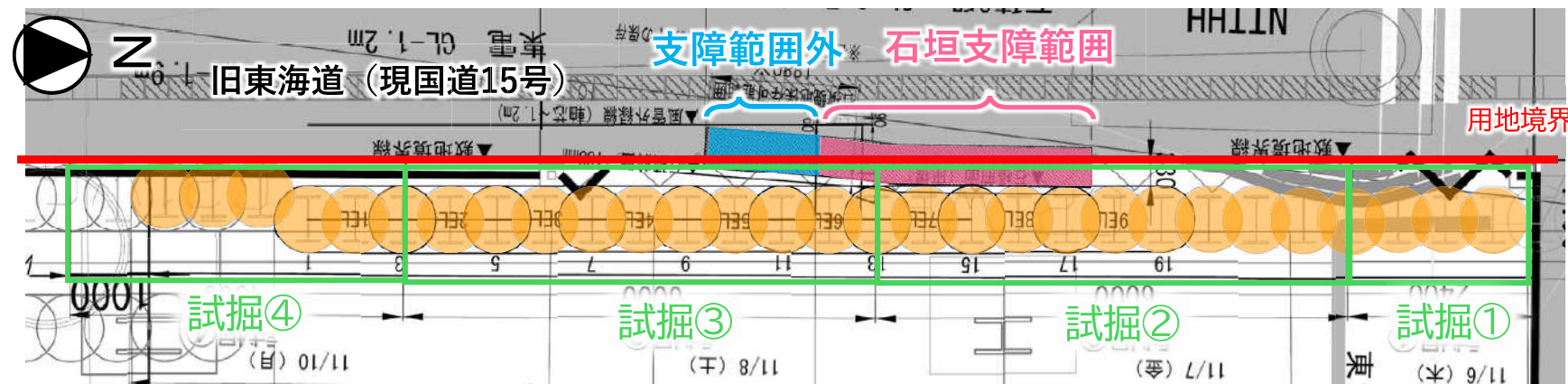
※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

国道側山留工事に伴い、埋設インフラ確認のために試掘を行ったところ、山留施工エリアより石垣(L=約4.9m・2段)を発見した。事業スケジュール厳守のため、当該箇所の山留工事に着手したい。

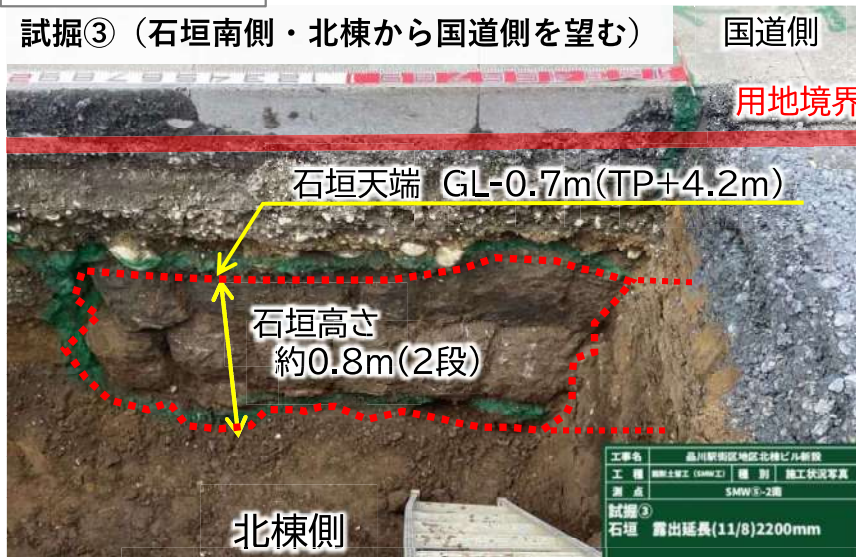


全4ヶ所(試掘①～試掘④)に分けて、深さ1.5m程度の試掘を実施したところ試掘②・③において石垣を発見した。

石垣と山留の位置関係図



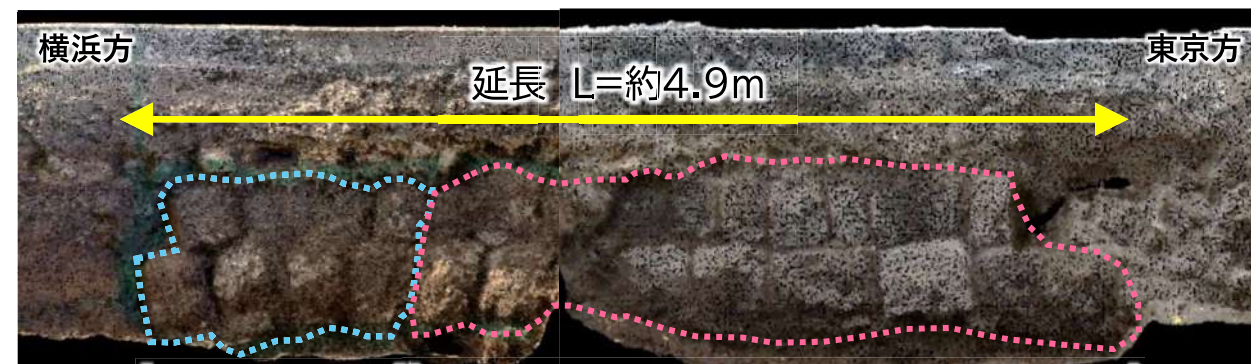
現場写真



石垣は2段確認(石垣下部を追加で試掘し、3段目以降は存在しないことを確認)

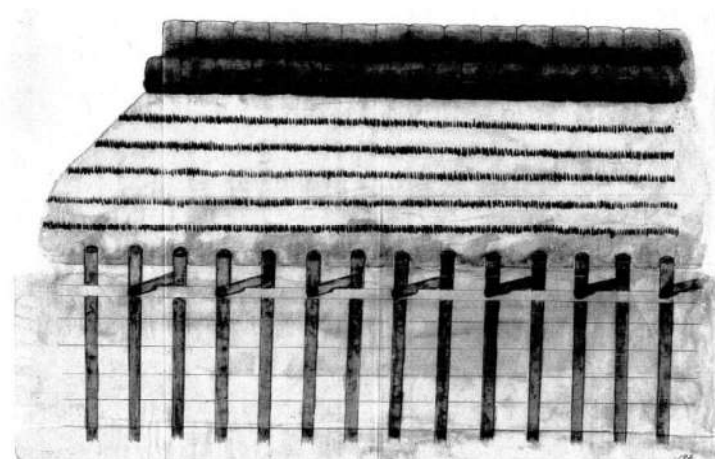
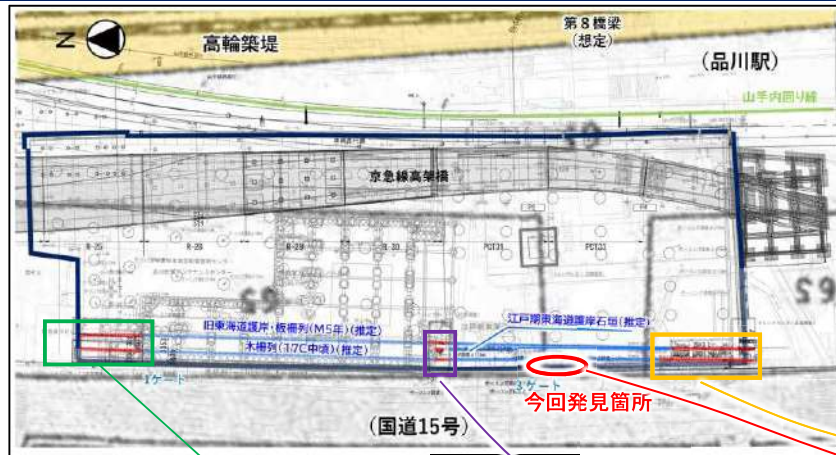
山留は用地境界より330mmの離隔

オルソ画像(試掘②・③)



石垣を撤去せずに山留工事が可能 (L=約1.2m) 山留工事の支障となることから石垣の撤去が必要 (L=約3.7m)

※現地石積の積層状況により支障範囲が変更となる場合がある



出典：鉄道博物館所蔵 高輪ヨリ品川迄土留板柵修理ノ義東京府往復 (明治5年自7月至11月)『鉄道寮事務簿』第4巻-46

《 石垣の内容について 》

舗道の直下 (補装より約70cm下) のTP+4.2mの天端の高さで確認されている。方向は南北方向に連なるとされるうちの幅5mが確認されている。石垣は間知石の布積みによる二段であり、その下部への積み石がないことが確認されている。

《 石垣の性格について 》

これまでの周辺の調査では①江戸時代 (17世紀中頃推定) 板柵列、②同じく旧東海道護岸石垣の痕跡、③明治5年鉄道建設による石垣撤去後の護岸修理のための板柵列、が西側より列状に並び、いずれも南北方向に延びていることが確認されている。

このうち今回見つかった石垣に関する資料として、鉄道の古文獻に記載されている修理図が残っている。この図によれば、板柵の上方には芝を植えた法面があり、その上に二段積みによる石垣によって海側の天端護岸としている。確認された石垣も板柵の西側に若干距離を置いて位置し、また、形状も極めて似ている。このことから今回確認した石垣は、この修理に伴う東海道護岸の上部の遺構が残ったものと考えられる。なお、本石垣は高輪地区の周辺の調査においても初めての確認である。